

AP事業及び 基盤力テストの概要

千代 勝実(山形大学 学術研究院)



おはようございます。山形大学の千代と申します。きょうは、天気はよくなりましたけれども、昨日、ほんと天候が悪くて、開催できるか非常に心配しておりましたが、皆さんお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。私はですね、この基盤力テストの運営と実施の責任者をやっております。また1年生のですね、山形大学1年生の教育に関して、いわゆる教養教育

の実施責任者をやっております。その中で、きょう簡単に概要として説明させていただこうと思っています。

実はですね、私はこの大阪大学の卒業生でして、約30年前ですね、この昔、イ号館と言っていたんですけども、こちらで勉強していたはずなんです。というのも、大抵の場合ですね、試験のときはこちらに来るんですが、試験がないときは、そこのところから右に曲がってしまって、学生会館で麻雀をしていたという感じで、非常に学生としてはあんまりいい人間ではなかったかなと思っています。

ただですね、ここ30年、開放から30年経ってきまして、学生の意識であるとか、また我々教員の意識もかなり変わってきて、もう多分皆さんの大学で、そういうどうしようもない学生というのは、多分もうほとんどいなくなってしまうんじゃないのかなと思います。そういうところで、学生も変わってきた、社会も変わってきた、我々も変わってきたという中で、次に何をやっていくかというところで、先ほどお話がありましたけれども、アセスメントをして、どのように解明していくかというところを、我々は着目して進めるようになったということになります。

報告の構成

1. AP事業及び基盤力テストの概要
報告者： 千代 勝実(山形大学 学術研究院 教授)
2. 学問基盤力テストの分析結果
報告者： 安田 淳一郎(山形大学 学術研究院 准教授)
3. 実践地域基盤力の分析結果
報告者： 藤原 宏司(山形大学 学術研究院 教授)
4. 教育の質保証強化に向けた分析結果の活用
報告者： 浅野 茂(山形大学 学術研究院 教授)

きょうは、まず私のほうから概要を説明させていただいて、簡単に基盤力テストのデモもさせていただこうと思っています。そのあと学問基盤力テスト、あとでご説明しますけれども、そちらについて、安田淳一郎から分析結果、それから実践地域基盤力について、このテストの分析結果を藤原から、それから総括として、先ほどから司会しており

3年一貫学士課程基盤教育

• 専門教育と共通教育を再構築

- **基盤共通教育**
全学学位授与方針(DP)の実現
全学として教育の質保証
大学導入科目・基幹科目・キャリア・語学等
- **基盤専門教育**
学位プログラムDPの実現
カリキュラム・コースの全学最適化と学修効果の最大化
専門教育科目・学部横断科目



我々のほうはですね、4年間なんですけれども、大学の学士課程4年間のうち初めの3年間は、3年間学士課程基盤教育という形で再構成しました。つまり4年生になると、学生の皆さんは大抵どのような進路に進んでいくか、大学院に行くか、卒業して就職するかとか、というふうな形で進路を決めることとなります。ですので、そこまでの参考資料として、この3年生のところで、最終的に学生

さんがどのような形で進んでいくかというのを決めてもらうために、ここのところを重視して、基礎的な力を身につけて、基盤的な力を身につけていくという形で基盤共通教育、これが先ほど申し上げました、いわゆる共通教育であったり、教養教育であったりというところになります。

そして基盤専門教育という形で、3年生だけの教育を構成しています。理系であれば例えば大学院に行く学生さんも多いので、4年生・M1・M2 という形の3年間。それから文系の学生さんであれば、卒業後就職する学生もいらっしゃるの、ここの1年間は総仕上げという形で、最終的な質保証ということを考えております。このように構成した最大の理由は、全学として教育の質保証をしたいというところがござります。つまり学部単位でというわけではなくて、山形大学全体で、山形大学を卒業した学生はこういう能力を持っているということを示したいということがあります。そこを含めまして、ここのところ、基盤共通教育という形で設定しています。

次に、基盤専門教育ですが、これもいわゆる専門教育だと思っただけであればと思いますが、ただ、できる限り学部のプログラム DP を実現するというだけではなくて、全学レベルでカリキュラムだとかコースを最適化して、例えばある学部でやっている授業をこの学部でやりたいとか、そういうような形の議論をする場を、統括教育ディレクター会議と呼んでいますけれども、教育担当副学部長ですね、副学部長が集まって教育課程の最適化をしたり、それらの割り振りを行ったりということで、学部からの、もしくは学科からの風通しをよくして、全学として山形大学 DP というものを実現するという、その中に学位プログラムの CP を実施していこうというふうに考えております。

3つの基盤力の育成—全学DPと関連した基盤力

- **学問基盤力**—**自律的に課題に取り組む専門力**
専門知識の体系的習得と実践的な運用体験
総合大学の学際**の強み**を生かした応用力の獲得
- **実践地域基盤力**—**社会でリーダーシップを発揮する人間力**
力強い学びを保証するキーコンピテンシーの育成
地域課題に挑戦し生涯学び続ける自己学習力獲得
- **国際基盤力**—**実践的な英語で多様性に挑戦する国際力**
基盤としての英語力を4技能・専門別に習得
英語PBLの実施、様々な活動を通じた国際理解



このような形で、28年、9年度から改革を始めました。先ほども理事からお話ありましたが、この中で我々ちょっと3つの基盤力というものを定義して、学生に身につけてもらうということを取り組んでおります。1つは、これは学問基盤力で、専門的な力、これいわゆる我々が考えている従来の大学での学びというところになりますが、それに加えて、実践的な運用経験や応用力と

して獲得、特に山形大学は総合大学ですので、単にその学問だけではなく、学際であったり応用であったりという部分を強く押し出していこうということがございます。なので、きょうは細かいところはあとで安田のほうから説明があるかと思えます。

もう1つは、実践地域基盤力ですね。こちらは人間力になりますけれども、いわゆるキーコンピテンシーですね。これについても詳しい説明は藤原のほうからあるかと思えますが、どのような学生が活躍を続けていくことができるか。リーダーシップとありますけれども、さまざまな局面で役割を担っているのかという学生、またそれに対して少し足りない、もしくは少し余分だよというか、という学生については、いわゆる適応していくのかというところを、今後検討していくような、検証していくような部分になるかと思えます。国際基盤力は、これはちょっとご説明詳しくしませんが、能力を高めていくということで、1年生から3年生の間で総合的に能力を身につけていったりですね、あとはeラーニングやテストであったり、あと留学も含めて、学生の能力を引っ張っていくということがあります。こちらのちょっと、きょうは細かくは準備しておりませんので、もしご質問があれば、あとでいただければと思います。

基盤力テストの概要

- **学問基盤力テスト**
 - 数的文章理解・数学・物理学・化学・生物学
- **実践地域基盤力テスト**
 - 5因子性格調査
 - 出欠状況・ポートフォリオ(現存)
 - フィールドワーク・インターンシップ・課外活動実績
- **国際基盤力テスト**
 - TOEIC(現在2回実施)
 - eラーニング、留学等国際関係活動実績



具体的な試験内容なんですけれども、まず1年生で実施しているものについてご説明したいと思います。1つは学問基盤力テスト、ちょっと理系に寄っている感じがしますが、数的文章理解、数学・物理学・化学・生物学で、1年生の終わりまでに身につけておいてほしいような能力を、理系の学生全員に受験していただいています。数的文章理解については、これグ

ラフを読んだり、表を読んだりして、そこから言えることだったり、言えないことだったりというのを理解しているかを確認するようなテストで、これは文系・理系関係なく、全学で受験してもらっています。つまりこの部分（数学・物理学・化学・生物学）は理系全員ですがここ（数的文章理解）は文系の学生と理系の学生全員ということになります。

次に、実践地域基盤力ですけれども、いわゆるビッグ・ファイブと言われる5因子性格調査といわれるものをライセンスしまして、そちらを使って調査しています。ほかに出欠状況やポートフォリオをやったり、あとインターンシップやフィールドワークなどの課外授業なども山形大学はかなり活発にやっていますので、そちらのほうの状況も加えて、いろいろ分析を始めています。きょうのところは、多分5因子のところと出欠状況、その他を合わせた分析結果が出されると思います。こちら（国際基盤力テスト）は、テストに関して言うと、TOEICであったり、eラーニングだったりというものを使って、学修成果を測定しております。29年度に既に1年生、今年ですね、30年の初めに、今年の1年生と、去年1年生だった2年生、つまり1年間の成長が見られるというふうな形で、きょう2人から報告していただくと思っています。

基盤力テストの実施基盤

- 独自にスマートフォンアプリ(YU Portal)を開発



と学生の時間割だったり、出欠だったりクラス分けだったり、総合的な学生への情報提供もしくは収集サービスという形で開発を継続しています。

YU Portalデモ

当日会場にて 投影



このテストを実施する基盤として、スマートフォンアプリ「YU Portal」と呼んでいますけれども、こちらのほうでテストを実施しています。あとでデモをさせていただこうと思っていますけれども、これでアプリを常に学生にインストールしておいてもらって、ログインした上で使い続けるというふうになっています。こちらはもともと試験だけではなくて、アンケートや、あ

一応ちょっと用意させていただいているのでお見せしたいと思います。ちょっと字が小さいかもしれないんですけど、こんな感じで表示されます。これは学生それぞれで、すべて自分のホームページという形で、アプリの中で提供されているわけです。つまり学生さんですね、例えば

呼び出しでも、個人名を掲示をすることなく、こちらから例えばそれこそ授業料の支払いといったような、ちょっと個人情報に関するようなものだったりするものも、こちらから呼び出しができるようになっています。まだそのような運用をしていませんが、そういうことを前提として準備しています。最初に必要な部分だけ簡単にお見せしようと思います。

こんな感じで、学生さんのこれはデモなので、あまり詳しくないですけれども、こういう形で、学生さんの履修している授業がこのような形で表示されます。こちらに、下のところですね、ちょっと、ここですね。このところに、学生さんがどれだけ出席したのかというのを色で見せています。タッチすると、いつ出席していつ欠席したかというのが分かるようになっています。我々はICカードリーダーと、それからあとで、ちょっとビデオでデモさせていただきますけれども、ビーコンと呼ばれる、i-Beaconと言われるような Bluetooth を使った出欠確認システムを入れていますので、そちらを使って、学生が来ているかどうか、もしくはどのぐらいの時間滞在しているかどうかというのが分かるようになっています。これがその学生の情報提供としての一環になります。あとこちらが1学期の4月初めは、教室がどこかというのは分からないので、学生さんがすぐ聞きに来るんですけど、どこが教室ですというのが調べられる。

それからですね、あとこちらは、ちょっときょうは後期がまだ始まったところなので入れないんですけども、英語のクラスだったり、フィールドワークのクラスだったりという形で、かなり大きな掲示板に、たくさん学生さんの名前を貼り出していたのをやめられるように、学生個人に向けて、あなたはどのクラスですということが伝わるようにしております。

テストなんですけれども、右上ですね、こちらのところ、もしくはこちら、こういう形で、左から出て、このところにアンケート、テストをしてくださいということで、押すところになります。こういう形で、テストの対応ですね。これちょっと全部出してもらっているのですごく量が多いですけれども、例えばですね、じゃあ物理にしましょうね。物理みたいな感じでちょっと押すと、こんな感じでテスト問題が出ます。これは5問解いてもらって、その学生さんの成績を評価するというふうになっています。

この画面の問題について、間違っている選択肢を選んで押すと、次に簡単な、より簡単な、同じように正解したら次により難しい問題ということで、あとでこれ安田のほうから説明あるかと思いますが、項目反応理論と呼ばれるテスト形式を使って、学生さんの成績を少ない問題数で測定するというふうになっています。1問あたりの最大の制限時間3分にしていますけれども、これもあとで少し説明があります。具体的になぜそういうふうになっているのか。例えばどれでも押せますけれども、こんな感じで押すと次の問題に行きますよという形になります。ちょっとこれはもう中断、あっ、中断しなくてもいいか、最後まで適当に押して結果が出ると。

これも押していきましょう。物理は間違えると恥ずかしいので、正しいのを選んでいきます。こういう感じで、どれを選んだかということで、成績が4段階で表示されるようになっています。これも、あなたはこれぐらいしかできていませんよとか、そのようなことではなくて、例えばどういうことを今後勉強していくと、この学問分野に興味を持てますよとか、理解が進みますよというようなことを説明すると。どっちかというアドバイス的な内容になっているということです。これはこんな感じですね。ほかにちょっと、ビデオだけちょっとお見せしようと思います。

出席確認のビーコンについて。こういうふうな形でスマートフォンに対して、こういうふうな、これは1個でいいんですけれども、大体げんこつよりちょっと小さいぐらいですね、3～4個連ねた石けん

みたいな、柔らかい消しゴムみたいなものなんですけれども、こちらから電波が出ていまして、これを各部屋に設置しています。これは、ある部屋に入ってくると、学生さんの履修情報と照らし合わせて、スマートフォンのほうで、自分がどの部屋にいるのかというのを確認した上で、そこにどのぐらい滞在しているのかということまで含めた情報もサーバーに送って、出席しているということであれば、こちらのところ、今ちょっとざっと出てきてできていますけれども、通知が出るようになっています。

併せて先ほどお見せした、出欠のところのまとめも表示されるということになります。いまのところは学生自分自身にしか出ないですけど、ここにこんな感じで反応して、出るということになっています。ちょっとここにはこの部屋に設置していないので、こういう形でちょっとお見せさせていただきましたけれども、こういうふうなものを使って出席確認を行っているということになります。私のほうからは、とりあえず概要ということで、こちら辺で終了させていただこうと思います。どうもありがとうございました。